「図解よくわかる　炭の力」

杉浦 銀治　監修，炭活用研究会　編集

単行本，139ページ，1,600円
（日刊工業新聞社，2014年3月25日刊）

飲食店やバーベキューなどで燃料として使われる他，脱臭や有害物質を吸着する能力があり，さらにはインテリアとしても使われ，近年脚光を浴びている「炭（すみ）」，以前は国の重要なエネルギー源として捉えられていましたが，戦後，石油やガスなどのエネルギー源に転換され，衰退の一途をたどりました。しかし炭は，他の化石燃料と異なり再生可能な木材を原料としていること，また，炭を燃焼させると二酸化炭素が放出されますが，その炭素源が，炭の原料である木や竹が生長する過程で光合成により大気から吸収した二酸化炭素であることから，その総量は変わらない「カーボンニュートラル」の性質を有する等の理由から，改めてその有用性が再評価され始めています。炭は，燃料素材としての使途にとどまらず，空気質や水質の向上に資し，また，無機物（ミネラル）を多く含むことから土壌の改良にも役立ち多彩な能力を兼ね備えています。

本書は，炭研究の第一人者として，70年以上に渡り炭の科学的な研究と炭焼き技術の普及に努められ，土壌改良や環境改善型農業を世界中で指導され国際炭焼き協会会長を務めてこられた杉浦銀治氏の監修で書かれたものです。書名の通り，イラストや写真が多く，イメージの助けとなり理解が進みます。第1章「炭の正体に迫る」と第2章「驚異!　炭が持つ4つの働き」では，炭の種類・製法・産地特性など，炭とは何かについて詳しい説明が展開し，有用な能力である吸着・調湿・還元・触媒の各作用が平易な文体で分かり易く解説されています。第3章「炭を上手に使うために」では，日常生活で応用できる炭の活用法が多岐に渡って解説されています。これらはいずれも科学的根拠に基づいたもので，科学的に未解明であるにも関わらず先走りしている「効果や効能」に関しては，それらを鵜呑みにしないよう隋所に注意が喚起され，正しく知識を得ることができます。第4章「炭は地球を救う」では，土壌改良の実績や機能性炭素材料の研究など有望視される応用事例について解説され，炭を基にした研究が環境汚染やエネルギー等の対策のために重要な手立てになることを学ぶことができます。最終章の第5章「炭のつくり方」では，炭の伝統的工法から工業的方法に至るまで詳細に解説されています。

環境破壊が進み異常気象や気候変動が多発している今，地球にやさしい炭について理解を深め，環境問題の解決へ向け啓発を促す一冊です。

青柳 玲児（株式会社ガステック）